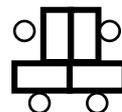


平成30年7月6日	授業者 和久井 達也	
中学3年	教科 数学	単元名 平方根
話し合い活動の意図と手立て	<p>(意図)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平方根の考えを利用し課題を解決する場面において、様々な見方や考え方に触れ、その中から、よりよい解法を理解させたい。 <p>(手立て)</p> <p>①実生活と関連する話題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 直近の修学旅行で見た南大門の写真を提示し、「円形の丸太から断面が正方形の角材を切り出すにはどうしたらよいか」という課題を設定する。 <p>③考えの視覚化</p> <ul style="list-style-type: none"> 円形の紙を用意し、生徒が手元で折ったり、線を引いたりなどの操作をすることで、数学的な解法を見い出したり、考えを伝えたりするときの手助けとなるようにする。 導入や発表の際に、タブレット画面をテレビに映すことにより、考えを伝えやすくする。 グループで考えた内容はホワイトボードにまとめることで、比較検討しやすくする。 <p>④話し合いの形態を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> 解法を練り合う場面では、深く話し合うことができるよう4人グループで、右の図のような座席で行う。視線が合いやすく、互いの机の上にあるプリントなどをのぞき込みやすいと考える。 	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行との関連づけや、丸太から角材を切り出すという生徒がイメージしやすい具体的な題材が、生徒の興味関心をひいた。 円形の紙を用意したことで、数学的な知識・技能の習熟が低い生徒も直観的に正解を見つけることができた。また、表現力が低くても「こうすればいいんだよ」と簡単な言葉や表現で相手に伝えることができていた。 ホワイトボードを与えたことで、3人もしくは4人グループで試行錯誤しながら問題を解決するなど、互いに思考を深める助けとなっていた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動をねらいの達成のための中心的な活動に据えたが、課題が難しかったことや活動させることが多くなってしまい、時間がかかりすぎてしまった。生徒が話し合う際に、明確なヒントを用意しておくなど、教師側のコーディネート力も高めなければならない。 	



(写真・資料など)



① 修学旅行の見学地から課題を理解する



② 円形の紙を操作し、それをもとに話し合う



③ グループでの課題解決場面



④ ホワイトボードを利用して、各グループの発表と比較